

まちづくり交付金 事後評価シート
緑区三保・新治地区

平成21年12月

神奈川県横浜市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	横浜市		地区名	緑区三保・新治地区			面積	600 ha	
交付期間	平成17～21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	6638.4百万円	国費率	40%			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 梅田川河川環境整備事業、梅田川プロムナード整備、市道北八期第453号線、(仮称)新治里山公園								
			提案事業	奥津邸実験活用事業、水辺愛護会補助事業								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	なし		基幹事業(公園)の(仮称)新治里山公園に統合			影響なし			
	新たに追加した事業		基幹事業	玄海田公園、総合流域防災事業(霧が丘流域貯留浸透事業)、新治市民の森、(仮称)霧が丘コミュニティハウス		地区目標達成のため、事業追加			玄海田公園:指標4の数値目標を上方修正			
			提案事業	(仮称)霧が丘地域防犯・防災活動拠点等整備、(仮称)霧が丘地域ケアプラザ		地区目標達成のため、事業追加			影響なし			
交付期間の変更		当初	平成17～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	水辺愛護会等の加入者数	人	64	H15末	70	H21末	72	○	あり なし	梅田川環境整備事業により川への関心度が高まり、梅田川周辺で水辺愛護会に加入し地域活動に参加する人が増加した。	H22年4月頃
	指標2	(梅田川水辺の楽校協議会の)イベント参加者数	人	265	H14末	450	H21末	540	○	あり なし	梅田川環境整備により地域活動の拠点となるスペースが増えたことで、地域活動団体の催すイベントへの参加者数が増加した。	H22年4月頃
	指標3	旧奥津邸の運営を担うスタッフの数 実行委員会・ボランティア	人	20	H15末	25	H21末	52	○	あり なし	旧奥津邸実験活用事業により環境への関心度が高まり、維持が困難なボランティアスタッフ数も増えた。	-
	指標4	旧奥津邸・玄海田公園イベント参加者	人	722	H15末	1,200	H21末	4,229	○	あり なし	公園、河川、農地等を里山空間として一体的に整備することにより、市民活動団体の活動拠点が整備され、団体が催すイベント回数が増加、参加者数も増加した。	H22年4月頃
指標5								あり なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	地域活動拠点のなかった地区内に、複合施設(コミュニティハウス、ケアプラザ、防犯・防災活動拠点など)を整備することで、地域住民やボランティアの活動の場が確保され、地域住民の交流、福祉保健活動など地域活動の活性化が図られた。											
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	住民参加プロセス		梅田川環境整備にあたり、水辺の楽校協議会や水辺愛護会などで意見を聴取した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も市民意見を反映させた事業を実施する。	
	持続的なまちづくり体制の構築		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

様式2-2 地区の概要

緑区三保・新治地区(神奈川県横浜市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
横浜市の緑の七大拠点の一つ「三保・新治地区」と鶴見川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の楽校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創出することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図るとともに、来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を促進する。	水辺愛護会等の加入者数	単位：人	64	H15末	70	H21末	72	H21末
	(梅田川水辺の楽校協議会)のイベント参加者数	単位：人	265	H14末	450	H21末	540	H21末
	「旧奥津邸」運営スタッフ数	単位：人	20	H15末	25	H21末	52	H21末
	「旧奥津邸」ほかイベント参加者数	単位：人	722	H15末	1,200	H21末	4,229	H21末
		単位：						



まちの課題の変化

- ・公園、河川等を里山空間として一体的に整備するとともに、新たに地域交流拠点を整備することで市民活動団体の活動拠点が整備され、団体が催すイベント回数が増加、参加者数も増加。地域の活性化が計られている。
- ・旧奥津邸実験活用事業のなかで、運用活用のあり方を検討。旧奥津邸で開催されるイベント参加者数は増加傾向にあり、市民ニーズに沿った利用が実現した。
- ・地域住民と行政の協働による川づくりを推進してきた結果、地域住民の考えを反映させた環境整備を実現することができた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【地域活動の継続化・定着化】

- ・本事業の環境活動拠点の整備完了後も、地元が主体となった維持管理・イベント開催を今後も継続させていくためには、市民と行政とのパートナーシップの継続が重要である。

【安全性の確保】

- ・河川環境を整備したことにより、親水拠点や川沿いのプロムナードなどにより、人が集まるようになったが、川の安全利用についての広報・啓発活動や安全施設の整備など、安心して川を利用できる仕組みを検討する必要がある。

【良好な環境の維持】

- ・公園、河川整備により人が集まることで生じる環境問題(ゴミ、生物生息環境)に対し、利用マナーの啓発をしていく必要がある。

【複合施設の認知度向上と施設間の連携】

- ・地域イベントや自主事業の実施により地域への浸透を図っていく。

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
緑区三保・新治地区

平成23年2月

神奈川県横浜市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	水辺愛護会等の加入者数	人	64	70	72	確定 見込み ●	○	あり なし	66	H22年4月	△	会に所属せず、行政の干渉を受けにくい自由な形での愛護活動をする個人が増加。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	梅田川環境整備事業により川への関心が高まり、梅田川周辺での環境維持活動が注目されている。	
指標2	(梅田川水辺の案校協議会の)イベント参加者数	人	265	450	540	確定 見込み ●	○	あり なし	470	H22年4月	○	-	□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	梅田川環境整備事業により川への関心が高まり、川のイベントへの参加者数が増加した。
指標3	旧奥津邸の運営を担うスタッフの数、実行委員会・ボランティア	人	20	25	52	確定 見込み ●	○	あり なし	-	-	-	-	□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	旧奥津邸実験活用事業により環境への関心度が高まり、維持が困難なボランティアスタッフ数も増えた。
指標4	旧奥津邸・玄海田公園イベント参加者	人	722	1,200	4,229	確定 見込み ●	○	あり なし	3,948	H22年4月	○	-	□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	公園、河川、農地等を里山空間として一体的に整備することにより、市民活動団体の活動拠点が整備され、団体が催すイベント回数が増加、参加者数も増加した。
指標5						確定 見込み ●	○	あり なし		H 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1						確定 見込み ●				H 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2						確定 見込み ●				H 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3						確定 見込み ●				H 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	地域活動の継続化・定着化	・地域活動、イベントへの協力・支援・連携 ・市民活動団体への助成	地域清掃活動に対する委託契約の実施及び、イベント協力等の協力・支援実施により、地域活動等の継続が図れている	市民活動団体、イベント主催については、地域住民が主体ですすめていく体制作りが必要
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	河川の利用促進により新たに発生が懸念される、水辺利用時の安全性の確保	・川の安全利用に関するリーフレットの配布、広報などを利用したPR ・河川の巡視点検 ・安全施設の整備(警報装置等)	降雨時の川に対する利用者の危機意識が向上した(事故報告なし)	特になし
	人が集まることにより生じることが懸念される環境問題(ゴミ、生物生息環境)	・地域住民と小学校、行政との協働による、梅田川クリーン活動・生き物観察会を実施	クリーンな河川環境が維持できている	特になし
	複合施設の認知度の向上と各施設間の連携の構築	・地域交流フェスタの開催 ・霧が丘地域福祉情報マップ作成	マップ作成やイベントの開催により、地域施設情報の共有化やコミュニティの形成が促進された	特になし

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

みどりくみほ にいはるちく
緑区三保・新治地区

かながわけん よこはまし
神奈川県 横浜市

平成23年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	緑区三保・新治地区	面積	600 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」と鶴見川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の楽校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創造することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図るとともに、来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

三保・新治地区は、駅から近く、利便性の高い区域での住宅開発が進んでいる一方、横浜の原風景の一つである農と里山の景観が残されている地区です。地区内には市内でも最大級の大規模な緑地があり、横浜市緑の基本計画において「緑の7大拠点」に位置づけるとともに、地区の中央を流れる梅田川についても「鶴見川流域水マスタープラン」の中でも骨格となる河川として検討されており、「横浜都市計画マスタープラン・緑区プラン」でも、これらを水と緑の貴重な環境資源として位置づけられています。このうち、新治地区では、「北の森構想」に基づいて、緑地や農地を一体的に保全しながら地域住民や地域外の市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流する場として、生態系に配慮した持続可能な自然循環型環境の整備を行うとともに、拠点施設整備による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を目指しており、現在、(仮称)新治里山公園と緑地保全地区の都市計画決定へ向けて地域との調整を行っています。また、新治地区にある「旧奥津邸」については、歴史的建造物である長屋門等もあることから横浜市が寄附を受けており、この地区の特徴的な里山景観を構成する地域資源として保全しながら整備することが求められています。これまでもイベント等の暫定的な利用を通じて市民利用の拠点として活用方策を検討しているところです。一方、梅田川は、中流部から約1km区間を「水辺の楽校プロジェクト」事業で整備し、河川の利用・管理などについて地域連携した「水辺の楽校協議会」が、また地域が自主的に水辺の管理活動を行う「水辺愛護会」が組織され、学校等の地域と協調してイベントや活動等が行われています。これらの地域活動や意見を踏まえ、河川改修の工事の完了により、市が一級河川の管理権限委譲を受けたことによる効果を発現させるため、市民の河川利用促進・管理への市民参加を促進し、「水辺の楽校プロジェクト区間」と同様に水辺に近づけ、川で遊び・親しめる整備が強く望まれています。

課題

緑地や農地、河川等が一体となった里山空間の保全・創造と地域の活性化が求められている。市民が自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための拠点整備が必要。「旧奥津邸」を市民との協働により、市民利用ニーズに沿った利活用が求められている。拠点整備やイベント等の開催による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化が求められている。鶴見川水系1級河川恩田川の合流点から上流約1kmまでは、昭和40年代から50年代に治水優先で護岸のみを改修し、親水性や生物生息環境に配慮されていない。下流区間においても、市民ニーズにあった整備や市民協働による維持管理が求められている。

将来ビジョン(中長期)

公園、緑地保全地区、市民の森、河川、農地等を里山空間として一体的に整備することにより、水と緑のネットワークを構築する。水と緑のネットワークの構築により、市民が総合的に自然環境を楽しみ、体験、学習、交流する場となるとともに、近隣小学校の総合的学習、環境教育の場となる。公園整備等による拠点整備による集客や農地の活用による観光農園等、市民が農とふれあえる場の整備により地域が活性化される。水辺の楽校協議会や水辺愛護会活動のフィールドが広がることにより、地域住民の意識の向上が図られ、住民と行政が協働した施設管理・愛護・美化計画の実現が可能となる。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
水辺愛護会等の加入者数	人	水辺愛護会等の活動団体の加入者	親しみやすい川を整備することにより、川で活動する水辺愛護会等の加入者数が増える。	64	平成15年度末	70	平成21年度
イベント参加者数	人	イベントに参加した一般市民の人数	公園、緑地保全地区、市民の森、河川、農地等を里山空間として一体的に整備することにより、川遊びをする人が増える。	265	平成14年度末	450	平成21年度
旧奥津邸の運営を担うスタッフの数 実行委員会・ボランティア	人	旧奥津邸活用実行委員会の加入者	市民活動の拠点となる施設を整備することにより、公園の運営を担う人材が増える	20	平成15年度末	25	平成21年度
旧奥津邸・玄海田公園イベント参加者	人	旧奥津邸・玄海田公園で主催するイベントに参加した一般市民の人数	市民活動の拠点となる施設を整備することにより、公園を利用者数が増加する。	722	平成15年度末	1200	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・緑地や農地、河川等が一体となった里山景観を保全・創造する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)新治里山公園整備 ・玄海田公園 ・梅田川河川環境整備 ・新治市民の森 ・霧が丘(旧第三小学校)流域貯留浸透事業
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するとともに地域の活性化にも資する拠点等を「旧奥津邸」なども活用しながら整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)新治里山公園整備 ・(仮称)霧が丘コミュニティハウス ・(仮称)霧が丘地域防犯・防災活動拠点等整備 ・(仮称)霧が丘地域ケアプラザ
<ul style="list-style-type: none"> ・拠点やプロムナード等の整備により水と緑のネットワーク形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅田川親水拠点整備 ・梅田川プロムナード整備 ・市道北八期第453号線(三保地区)道路改良事業
<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑のネットワーク形成において親水性や生物生息環境に配慮した整備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅田川親水拠点整備 ・梅田川プロムナード整備
<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズに即した整備や市民協働による維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥津邸実験活用事業 ・水辺愛護会補助事業(河川清掃に関する補助) ・(仮称)霧が丘コミュニティハウス ・(仮称)霧が丘地域防犯・防災活動拠点等整備 ・梅田川プロムナード整備
<p>その他</p>	

